

豊田PCB廃棄物処理事業だより(No.98)

1. 春期定期点検の実施について

平成24年度の春期定期点検は5月7日から5月30日までの日程で実施しました。

(1) 春期定期点検の実施

定期点検の主な内容は次の通りです。

- ①各設備の機能を維持するために、損傷等が発生していないか確認し、排気処理の活性炭を含め消耗部品等の定期交換を実施しました。
- ②豊田施設は稼働開始後約7年が経過しており、各部に摩耗、腐食、損傷等が予想されます。これらの部品を安全・安定操業のため交換・改修を実施しました。
- ③ボイラー、第一種圧力容器、クレーン、消防設備等の法定点検、検査を実施しました。
- ④設備の能力アップ、安全性の向上等を目的とした改造を実施しました。



解体設備(中型切断機)点検の様子

点検終了後は、順々に施設を立上げ、安全に操業できることを確認してから、6月4日より操業を再開しています。



災害防止協議会パトロールの様子

(2) 安全対策について

点検期間中は通常の従業員数を大幅に超える作業員の方々が入場します。定期点検中の安全を確保するために以下の安全施策を実施し、労働災害なく定期点検は終了しました。

- ①災害防止協議会・・・各施工業者の代表者に集合していただき、安全管理の体制、入場時の規則、作業時の注意事項等を説明し、徹底しました。
- ②安全パトロール・・・弊社及び定期点検業者で構成された災害防止協議会メンバーにより定期的(週1回)にパトロールを実施し、注意事項等が守られているか確認し、安全作業を指導しました。
- ③安全審査会・・・火気、高所作業等が含まれる業務の実施前に手順を確認し、危険箇所・作業を共通認識した上で安全作業を行いました。
- ④KYミーティング・・・各作業の開始前に作業員(場合によっては運転担当者も参加)が集合し、作業時に発生する事が考えられる危険な状況を洗い出し、その対処方法を全員で確認し実行しました。

2. PCB廃棄物の6月の受入計画について

24年6月の受入計画(予定)

種別	受入台数	
コンデンサ類	464 台	
トランス類	大型	4 台
	小型	20 台
	車載型	3 台
廃PCB等	15 個	
保管容器	1 個	

6月のPCB廃棄物の受入計画は、左表のとおりです。

コンデンサ類は、豊田市内の事業者から1台、愛知県内の事業者から110台、岐阜県内から12台、静岡県内から341台を受け入れる予定です。

大型・小型トランス類は、愛知県内から1台、静岡県内から8台、三重県内から15台、車載型トランスは静岡県内から3台を受け入れる予定です。また、ドラム缶に入っているPCB油(廃PCB等)は、静岡県内から7個、三重県内から8個、保管容器は、豊田市内から1個を受け入れる予定です。

3. 少量保管事業者に対する説明会の開催について

弊社では、処理対象であるPCB廃棄物(コンデンサ、トランス等)の少量保管事業者を対象に、各地で『PCB廃棄物処理説明会』を開催しています。

5月17日に愛知県東郷町・長久手市・日進市・豊明市・みよし市、18日に愛知県春日井市・瀬戸市・尾張旭市を対象に説明会を開催し、合わせて62社の事業者の方々にご出席いただきました。説明会では、平成24年12月～平成25年2月の重点搬入期間に向けて、受入までに進めていただく契約諸手続き、事業者間の積合せ(混載)運搬等の説明を行いました。

今後も計画的に少量保管事業者向けの説明会を開催し、少量保管物にも配慮したPCB廃棄物の処理を継続してまいります。



5/17 東郷町民会館での少量保管事業者説明会の様子

4. PCB廃棄物処理事業検討委員会豊田事業部会開催について

5月16日に、JESCO本社(東京都港区芝)にてPCB廃棄物処理事業検討委員会豊田事業部会(主査: 田中勝 鳥取環境大学教授)を開催しました。通常、当部会は豊田施設で開催しておりますが、今回は東京で開催いたしました。

今事業部会では、豊田施設の操業状況や漏洩対策の実施状況を説明したほか、豊田施設におけるトラブル情報の公開の考え方等についてご審議をいただきました。

豊田施設ではトラブル発生時に限らず、情報の公表に努めておりますが、今後は事業部会でのご意見を踏まえ、より一層分かりやすい情報の公表方法を検討するなど、情報公開の充実に努めてまいります。

5. 豊田市PCB処理安全監視委員会の開催について

5月30日、豊田施設にて平成24年度第1回豊田市PCB処理安全監視委員会(委員長: 松田仁樹 名古屋大学大学院教授)が開催されました。



監視委員会の様子

今回の監視委員会では、JESCOからは、①平成23年度末のPCB廃棄物の処理実績、②豊田事業所再生計画の実施状況、③豊田市議会からの要望書に対するJESCOの回答及びその実施状況について報告等を行ないました。

また、PCB処理事業の進捗が遅れていることから、環境省からは、同省が設置した「PCB廃棄物適正処理推進に関する検討委員会」(以下、検討委員会という。)において現在検討中の処理促進策について説明がありました。

豊田施設では、この検討委員会における議論を踏まえ、PCB廃棄物をできるだけ早く処理するという観点から、対応策を検討してまいります。

6. 平成23年度環境モニタリング調査結果について

豊田施設では、設備の稼動に伴う周辺環境への影響の有無を把握するため、定期的にモニタリング調査を行なっております。

平成23年度の調査結果は右表のとおりです。すべて環境基準値等に適合しています。

(注) 大気中のPCB濃度については環境基準値が定められていないため、「PCB等を焼却処分する場合における排ガス中のPCBの暫定排出許容限界について」(昭和47年12月22日付環境庁大気保全局長通達)で示された評価基準値を使用。また、ダイオキシン類及びベンゼンの大気環境基準は、豊田施設の存在する工業専用地域には適用されません。

要素	調査項目	調査結果	環境基準値等	年間調査回数等
大気	PCB ($\mu\text{g}/\text{m}^3$)	0.00056 ～ 0.0039	年平均 0.5 (注)	・調査回数 年 4 回 ・調査地点 風下側の敷地境界の 1 地点
	ダイオキシン類 (pg-TEQ/ m^3)	0.013 ～ 0.023	年平均 0.6(注)	
	ベンゼン (mg/ m^3)	0.0007 ～ 0.0019	年平均 0.003 (注)	
土壌	PCB (mg/%)	0.0005 未滿	検出されないこと (0.0005 未滿)	・調査回数 年 1 回(土壌) 年 2 回(地下水)
	ダイオキシン類 (pg-TEQ/g)	1.5	1000	
地下水	PCB (mg/%)	0.0005 未滿	検出されないこと (0.0005 未滿)	・調査地点 敷地内の 1 地点
	ダイオキシン類 (pg-TEQ/%)	0.038	1.0	

問い合わせ先

日本環境安全事業株式会社(JESCO) 豊田事業所 0565-25-3110
【豊田事業HP】 <http://www.jesconet.co.jp/facility/toyota/index.html>